

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	学習目標を焦点化し、一人一人の生徒が課題意識をもって授業に臨める授業作りを行う。	最 終 評 価	学習課題を焦点化した授業を展開することにより、生徒の様々な成長を後押しすることができた。また、個々の生徒の学習課題について明確化することができた。
環境作り		ICT を活用して視覚的に生徒の学習を支援する環境づくりを行い、個々の生徒の学びの実態に応じた学習活動を展開する。		授業展開の工夫として ICT 機器を効果的に活用し、個々の生徒の学びに応じた学習活動を行うことができた。

■ 教科の取組内容

教科	令和元年度の定着度調査や 6 月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての生徒の課題	改善のための取組	追加する取組等（12 月）	年度末の取組評価（2 月）
国語	調 全ての学年が全国の平均正答率を上回っており、新宿区学力定着度調査の結果はおおむね良好であった。特に「書くこと」「読むこと」の領域は正答率が平均を大きく上回っている。一方、「話すこと・聞くこと」の領域は平均をわずかに下回っており課題が見られる。 学 コロナ対応による教室環境にも徐々になれ、授業にしっかりと取り組んでいる姿勢が見られるが、授業に集中できない生徒も見られる。	- 学習への意欲・関心をさらに高め、より主体的な学習の取り組みを向上させていく必要がある。 「話す・聞く」について理解を深め、実践をとおして力を身に付けていく必要がある。 「言語についての知識・理解」について、漢字・語彙に興味をもち、漢字・語彙の力を身に付けていく必要がある。	- 授業のねらい、学習課題（目標）を生徒に明確に示し、言語活動を工夫することで生徒の意欲的な授業参加を促す。 「話す・聞く」学習では、場面ごとにめざす目標を一つ一つ明確にし、生徒に共有させ、具体的な言語活動（スピーチや討論など）と結び付けながら授業を展開する。そのことにより、生徒の「話す力」と「聞く力」の向上を目指す。 - e ライブラリなどを活用し、家庭でもタブレット等を活用して学習に取り組む意識を身に付けさせる。	「話す・聞く」学習の一環として、3 学年ではディベートを行い、テーマに関するメリット・デメリットを整理して立論を作成したり、相手の主張に反駁する学習を行った。 - 授業記録やワークシート記入、学習の振り返りを「あとがき」にまとめる作業をとおして、書くことを学習の中に位置付けて実施している。話し合いの学習において聞いた内容を整理しながらメモする力の育成に努めている。	- 意見文や文集の執筆など、自己の経験や考えを文章にまとめることの価値に気づき、意欲的に取り組んでいる。 1 学年・2 学年ともに「話し合いの内容を聞き取る力」では、新宿区学力定着度調査で区の平均正答率を上回っており、今後もさらにその力を伸ばす指導を行っていく。 1 学年では「漢字を書く力」「文法・語法に関する知識」について、今後重点的に指導していく必要がある。 - 読む力は、説明文および文学的文章のどちらにおいても 1 学年・2 学年ともに新宿区学力定着度調査で区の平均正答率を上回っており、今後も継続して読む力の指導に努めていきたい。
社会	学 各学年、意欲的に取り組む生徒がいる反面、なかなか興味を抱けず、集中しきれない生徒も見られる。 学 資料から必要な情報を得て説明する力、自分の言葉で事象について説明する力を伸ばすことが課題。	- 基礎的な部分など、既習事項の定着に大きな差が見られる。基礎的な部分の定着を徹底するとともに、その基礎知識を活用した応用力を育てることが課題である。 - 様々な事象に対して自分の考えをもち、発表するという点に課題がある。	- 既習事項の定着を図るために、単元テストの実施や授業のまとめで、要点部分をまとめた解説をするとともに、家庭で復習する際にタブレットなどの端末を用いた学習方法を提示するなど、学習内容を振り返る方法を工夫する。 - 様々な事象に対して自分の考えを述べる場面を設定し、他者と同意見であっても自分の言葉で意見を述べさせる。 - e ライブラリなどを活用し、家庭でもタブレット等を活用して学習に取り組む意識を身に付けさせる。	- 家庭学習で使用できる教材などを適宜提示することで、知的好奇心を高める。 - 意見交換の場面を増やすことで、自分の考えを深めさせる。	- 授業ノート作りや家庭での学習などに意欲的に取り組んでいる。その結果、以前よりも多くの生徒に既習事項の定着が見られた。 - 自分の言葉で表現することを苦手とする生徒は多くいるが、理解度の高い生徒の発言を聞いて自分の考えを深めている様子が見られた。 - 高い学習意欲を維持できるよう、教材の提示や学習方法の紹介などを積極的に伝えていく。
数学	学 落ち着いて授業に取り組んでいる。「頑張りたい」「解けるようになりたい」という思いをもっている生徒が多く意欲的に学習に取り組み、積極的に問題を解いている。 学 数学的に物事を捉えることができていない場面が見られる。	- 学習の習得状況の差が大きい。 - 自分の意見を書くことはできるが、仲間に説明したり、人前で発表したりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。 - 数学的に物事を捉える経験に乏しい。	- 協力し合って、学習に取り組む機会を作り、教え合うことで、相互の理解度を高める。 - 習熟度別少人数授業を活用し、基礎の定着に重点を置く生徒と応用力の強化を目指す生徒など個に応じた指導で個々の力を伸ばしていく。 - グループ活動や発表をとおして、説明する力を伸ばし、学び合う中で理解を深めさせ応用力の強化を目指していく。 - 実生活の中で考えられる課題を出題し、レポートを作成させる。 - e ライブラリなどを活用し、家庭でもタブレット等を活用して学習に取り組む意識を身に付けさせる。	- 反復した学習を行うことで、基礎・基本を確実に定着させていく。 - 習熟度別少人数の授業では、各クラスに合わせた演習問題に取り組むことで、個々の力を伸ばすことができています。 - グループ活動を取り入れる場面をさらに増やしていき、効果的な学び合いができるよう工夫していく。 - レポートの作成などにより、数学的な表現を用いることができるようにしていく。	- 基礎・基本を定着させたうえで、習熟度別少人数のコースに合わせてプリントの内容を工夫し、応用力も強化できるよう個に応じた支援を実施していく。 - グループ活動をとおして、学び合いの中で理解を深めさせ数学的な思考力・判断力をさらに育てていけるよう、今年度の実践を基に来年度の授業計画を工夫していく。 - 各クラスに合わせた演習問題に取り組ませることで、基礎・基本、応用力を身に付けさせることができた。 - レポート作成などにより、表現を用いる場面を増やしていきたい。
理科	学 落ち着いて授業に取り組み、基礎の定着は概ねできていると考えられる。 学 3 年生は、苦手意識が高いものを後回しにする傾向がある。また、問題文など最後まで読まずに解くため、回答方法を間違えるような生徒も見られる。	- 事象の捉え方をさまざまな身近な事象を結び付けることが必要である。 - 自ら学ぶ意欲が低いため、課題として出題されない限り、勉強に取り組まない生徒が多い。	- ペアワークをすることで、自ら進んで作業に取り組ませたり、考えて意見を出させたりする。また、学力が高い生徒が低い生徒のサポートをすることで、お互いの理解の向上につなげていく。 - e ライブラリなどを活用し、家庭でもタブレット等を活用して学習に取り組む意識を身に付けさせる。	- 自分の意見をわかりやすく伝えたり、文章にできるようにしたり、科学的現象の理解を定着させていく。 - 身近な出来事、現象に興味をもたせ、調べることで学習意欲を高めさせる。	- 基本的な知識の定着ができたうえで、身近な現象に興味をもたせ、さまざまな視点から現象をとらえ、科学的に考えるための活動をもっと増やしていく。 - 長い文章を読み込む力を高めるために、学び合いの中で、長い文章を読む課題も増やしていく。 - 学校での学習の他に e ライブラリなどの家庭学習を取り入れたことによって、学力が今まで以上に定着した。今後も行っていく。

英語	【学】1年生は基本的な学習習慣や授業規律を身に付けることが課題である。 【学】2, 3年生は学習の準備が整っており、基本的な学習習慣が身に付いている生徒がほとんどである。	・学習の習得状況に個人差はあるものの、全体として「書く力（表現力）」と「知識・理解」をさらに伸ばすことが今後の課題としてあげられる。	・1年生は3年間の基礎を作る学習習慣を身に付けるとともに、口頭練習を中心としながら、書く力を伸ばす。 ・2年生はALTとの英作文Q&Aを丁寧に進め、表現力を高める。 ・3年生は自己表現英作文の練習を徹底し、確かな表現力を身に付けさせる。 ・全学年で、英作文に継続的に取り組む。 ・e ライブラリなどを活用し、学校外でも手が空いた時にゲーム感覚で学習を進める意識を身に付けさせる。	・1年生は、発音やイントネーションに注意しながらの音読活動や、自身についての英作文作成を継続的に行う。ALT との対話では即興を一部取り入れた対話活動を行い、表現力を高める。 ・2年生は継続的な英作文に加えて、思考力を深める発問を取り入れ、物語の要約や自己表現力の活性化に力を入れる。毎時間のfeedback sheet も取り入れた。 ・3年生は毎時間のALT との即興対話を2学期より取り入れた。必然性のある場面での英作文練習を継続し、3年間の集大成として確かな表現力を身に付けさせる。	・学習の習得状況に個人差はあるが、「書く力」と「知識・理解」をさらに伸ばすことを課題としている。全学年で即興スピーキング、ディクテーション（書き取り）活動と英作文作成・発表を継続的に取り組む。 ・全学年でピクチャーディスクライビング（描写説明）、ペアでのミニディベートなどで知識・理解を技能として活用し、表現力・応用力を磨いていく。

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況